

科目名		<b>作業環境管理学演習</b>	
科目責任者	宮内 博幸	(作業環境計測制御学 教授)	
担当者	石松 維世	(作業環境計測制御学 教授)	
担当者	石田尾 徹	(作業環境計測制御学 講師)	
開講時期:	2年次	単位数:	4 単位
		時間数:	90分× 30 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>労働者の健康の保持ならびに社会の安全を目的として、作業環境における健康に危害を及ぼす要因を的確に予測し、認識し、評価し、そして管理する作業環境管理の基本的な知識と測定手法を演習によって学ぶ。また、新たな労働衛生管理手法であるリスクアセスメントに必要な個人曝露測定手法について演習を通して学ぶ。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 戦後の労働衛生史を概説できる。</li> <li>2) 作業環境管理学の発展と課題について説明できる。</li> <li>3) 作業環境管理の基本を説明できる。</li> <li>4) 有害物質の分類と性状を説明できる。</li> <li>5) 作業環境測定の実施方法を説明できる。</li> <li>6) 粒子状物質に関する作業環境計測技術を説明できる。</li> <li>7) 有機化合物に関する作業環境計測技術を説明できる。</li> <li>8) 重金属に関する作業環境計測技術を説明できる。</li> <li>9) リアルタイムモニターの原理と応用について説明できる。</li> <li>10) 曝露限界、生物学的曝露限界について概説できる。</li> <li>11) 危険有害性情報について説明できる。</li> <li>12) 作業環境測定結果の評価法について説明できる。</li> <li>13) 化学物質リスクアセスメントの方法、個人曝露濃度の計測原理について説明できる。</li> <li>14) 作業管理の基本的な考え方を説明できる。</li> <li>15) 労働衛生保護具の種類と選択方法を説明できる。</li> </ol>			
● 評価方法	出席状況10%、討論20%、発表20%、レポート等50%で総合評価する。		
● 参考文献	演習の中で必要に応じ紹介する。		

● 授業内容

回	内容	担当教員
1・5・9・13・ 17・21・25・29	作業環境管理について専門的な視野のもとに、評価、改善、管理を中心としたテーマについての演習、指導を行う。さらに、将来、ハイジニストとしての活動につながる実践的な管理方法の演習を中心とした指導を行う。	宮内
2・6・10・14・ 18・22・26・30	計測技術についての知識と技術向上のため、多種の化学物質に対する実践的な計測の演習を行う。今後、特に重要となるリスクアセスメント対象物質についても指導を行う。	石松
3・7・11・15・ 19・23・27	環境中化学物質のハザードを正しく把握すること、存在形態を正確に判断することにより、正しい測定手法を選択、評価する方法を習得させる。さらに問題となっている新規化学物質についてのSDSを研究し、対策手順を示すことができるレベルまでの演習指導を行う。	宮内
4・8・12・16・ 20・24・28	リスク削減技術についての実践的な演習を、セミナー形式で指導する。	石田尾